



守られる地域の伝統 尾鷲九鬼町の正月行事

写真提供:尾鷲市

寒ブリの漁場として知られる尾鷲市九鬼町では、船上神楽・ひょうげんきょう・にらくら祭り・星まつり(プリ祭り)と正月行事が次々と繰り広げられます。

元旦の夜明け前からは、海難で亡くなった人や魚の霊を慰めると共に新年の豊漁を祈願するお祭りです。約130年前から始まったと言われている「船上神楽」の神事が始まります。

神楽舞は、伊勢大神楽の系統で船先の上で日の出を浴びて舞う姿は神々しく、豪快です。

「ひょうげんきょう」は法華経がなまったもので、大晦日の午後、子どもたちが「松木に米も買う 銭も金も持って代々 良い年おとらんせ」と歌いながら各戸を回って薪やお金を集めます。各戸では米や銭、薪2~3本を与えます。

集められた薪は、寺の下の「にらくら」と呼ばれる石垣を巡らせた小さな空き地に積み、夜8時頃に火が灯ります。この場所は昔の波打ち際、大きなニナと呼ばれるウニが生息し、その針で漁師が足をついて困ったことからそれを全部捕って焼却したといわれ、そのたたりを恐れてニナの供養にこの「ひょうげんきょう」が続いています。

たき火が燃えきった後、水をかけて消し、消し炭の泥田を再現します。掛けの魚のしめ飾りも飾られたこの「にらくら」で、元旦の朝、正月祭りの樽人らが裸でこの炭泥をかけあう相撲「にらくら祭り」が行われます。真っ黒になればなるほど大漁があるという豊漁を占う愉快な正月行事です。

お寺の境内に弓結い行事に使う的(直径1メートル)を滑稽な動作を披露しながら担ぎ上げ、矢を射って大漁を占う行事「星祭り」(別名プリ祭り)も1月5日に行われます。

年末から始まった多彩な行事を終えて、九鬼は新しい年を迎えるのです。



寺へ向かう行列



熊野古道からの
 てがみ

熊野古道からの
 てがみ
 25 通目

生まれは富山ですが、赴任地がここ南紀熊野の地となり、同期生が多くいましたが、田舎・交通の不便さ等で大半がこの地を離れました。雪国は、雨・雪などの曇天が約五ヶ月間続き、長靴履きの生活に對して、冬晴れで常緑の山々に囲まれ、本当に暮らし易い地であり住むことになりました。余暇は、娯楽施設が乏しく必然的に山登りや沢登りを楽しむようになり、とりわけ岳人には未登・未遡行の地域であるため「新宮山の会」に入会し山行活動に勤しんで来ました。

退職後、家内の実家「紀州犬のふるさと御浜町阪本」で家庭菜園するため鶴殿から通うかたわら、四十年代に目指した全国の「烏帽子名の山々」に再挑戦し、200山を約7年かけて単独踏破しました。

その後、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」である大峰奥駈道の南奥駈道(太古ノ辻から本宮まで45km)の登山道と山小屋3棟(持経宿・平治宿・行仙宿)の保守・管理を主な山行行事にしている「新宮山彦ぐるーぶ」の会友としての山行が主な活動になっています。皆さんも南奥駈道の一部を一度は歩いて頂きたいと思っております。

次は熊野市の
 杉岡昇さん



かわしま いさお
 川島 功さん
 (紀宝町)
 新宮山彦ぐるーぶ
 世話人

家庭菜園下の横垣峠への熊野古道には、峠を行き来する人の楽しげな話し声が聞こえましたが、昨年の台風12号の豪雨により山斜面の地滑りが拡がり、峠は長期通行止めとなり、訪れる人は海を渡る蝶「アサギマダラ」がフジバカマ畑に休息する秋だけと少なくなりました。一日も早く復旧する日が待たれ、以前の様に多くの峠越えの旅人が訪れることを待ち望んでいます。



原本集落の鳥島の石灯籠と紀州犬

花尻 薫からの季節のたより No.25 「千両・万両・有り通し」は 家庭に福の神が訪れることのたとえです。

「千両・万両・有り通し」は、昔から目出度い事のたとえで、正月の床の間に飾られます。「有り通し」は植物の仲間アジサイと書き、コーヒーの木やクチナシの仲間アカネ科という群れに入ります。熊野古道沿いでよく見かける「カギカズラ」や、いやな匂いで敬遠される「ヘクソカズラ」なども同じ仲間です。

また、節分の豆まきにも、イワシの頭やサンマの頭を割り箸に挟んで、アジサイやヒイラギと合わせて扉や門などに付けて、鬼よけにしますので昔から節分行事としてよく知られています。節分は、春のはじめに神が訪れて幸福を与えてくれるという古代の信仰に基づくと言われているのです。

アジサイには鋭い針があり、蟻のような小さなものでも通すと言われ、アジサイという名が付きましました。この針は植物の托葉という葉の一部分です。

針が鋭いので「鳥不止」とか、「鼠の鼻通し」などの呼び方もあります。アジサイの果実は冬に熟して赤くなり、本州の関東から西の地方、四国・九州・琉球諸島・韓国・中国南部・台湾などに分布します。

節分に悪い病気や、不幸が家庭の中に入りこまないように、日本の各地域では昔から、様々の鬼退治の方法があります。

シダの仲間のヒカゲノカズラという長いシダを割り箸に巻きつけて「鬼しばり」と呼んだり、女の人の髪の毛を巻きつけたりします。「福は内、鬼は外」の鬼払いの際、小石が無い場合は、軒下の雨のかかる場所で、角のある小石を集め、大豆と合わせて鬼払いをしますところもあります。



センター敷地内『夢古道おわせ』へぜひお立ち寄りください!

お母ちゃんのランチバイキング
 尾鷲・東紀州の食材をふんだんに使った、地元のお母さんの味です。

営業時間: 11:00~14:00
 料 金: 中学生以上1,200円
 小学生以上700円
 4歳~小学生300円
 乳幼児無料
 60歳以上1,000円

みえ尾鷲海洋深層水「夢古道の湯」
 深海415メートルから取水された海洋深層水のお風呂。ミネラルが豊富で保温性に優れているので、湯上り後もポカポカです。

開館時間: 10:00~21:00
 入浴料: 一般 600円
 65歳以上 500円
 4歳~小学生 300円
 4歳未満 無料

お風呂あがりには、カフェでゆったり

営業時間: 9:00~21:00
 (最終受付 21:00)

**★熊野古道センターニュースレター★
 “熊野古道センターからのてがみ 2012年冬号”**

- 発行日: 2012年12月9日(季刊)
- 編集・発行: 三重県立熊野古道センター (三重県指定管理者 NPO法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク)
- 編集担当: 野田
- 連絡先: 〒519-3625 三重県尾鷲市向井字村島12-4 TEL 0597-25-2666 FAX 0597-25-2667 Mail info@kumanokodocenter.com HP http://www.kumanokodocenter.com
- 開館時間: 午前9時~午後5時
- 入場料: 無料
- 休館日: 12月31日、1月1日 (その他メンテナンス時休館)

●お車でお越しの方は...
 国道42号線で尾鷲市内一ノ瀬南交差点を海側へ曲がる→突き当たりを右折→県道を海沿いにしばらく走り、案内看板を右折して到着です。(国道から約10分)

●電車でお越しの方は...
 ■JR尾鷲駅下車→ふれあいバス「尾鷲駅」バス停(徒歩1分)、または三宮交通「尾鷲駅」バス停(徒歩5分)乗車→「熊野古道センター前」下車
 ■松阪駅→南紀特急バス「熊野古道センター行」終点下車(約2時間)

60000121209RN

イベント情報
Event Info.

企画展

「熊野の食文化」

地域ごとに生活や習慣が異なるように、食文化もさまざまです。先人たちは生活の中で、海や山からの自然の恵みをどのように工夫し活用してきたのか、郷土に伝わる“ふるさとの味”などを取り上げ、東紀州地域の食の文化を紹介します。

期間:平成24年11月17日(土)～平成25年1月14日(月・祝日)
午前9時～午後5時 ※12月31日(月)、1月1日(火・祝)休館
入場料:無料
場所:企画展示室



さんますだれ干しの風景



山間部で食べられるなすし

1 シンポジウム「熊野の食」

東紀州の食について、さまざまな立場からお話をいただき、地域の食の将来を考えます。
日時:平成24年12月9日(日)
午後1時30分～3時(予定)
場所:交流棟 大ホール
定員:100名程度(要申込・先着順)
参加料:無料

基調講演:成田美代氏(三重大学名誉教授、みえ食文化研究会会長)
パネリスト:成田美代氏(三重大学名誉教授、みえ食文化研究会会長)
村林新吾氏(三重県立相可高等学校食物調理科教諭)、他
コーディネーター:中野朝生氏(紀伊長島ふるさと懇話会会長)

2 体験学習「郷土のお菓子をつくろう!!!」

昔ながらのお菓子を作って味わおう!
日時:平成25年1月12日(土)午前10時～正午
場所:熊野古道センター 体験学習室
定員:25名程度(要申込・先着順)

参加料:300円
対象:小学生～中学生
講師:内山千恵氏
(尾鷲市食生活改善推進協議会会長) 参考展示資料



参考展示資料

地域の情報 News
Pick Up!

和歌山県世界遺産センターからのお知らせ



10月に実施した「熊野古道中辺路環境保全ウォーク」は天候にも恵まれ、354名の方々に参加していただきました。当日は、発心門休憩所をスタートし、途中の式水と祓殿の2箇所まで道普請を行いました。来年の3月上旬にも環境保全ウォーク(紀伊路)を予定しています。近づきましたら和歌山県観光連盟HP・和歌山県世界遺産センターHPに詳細を掲載いたしますので、ご覧下さい。

今年度、現在のところ、28団体1420名の皆様に「参詣道修復活動」道普請に参加していただいています。道普請の体験から「世界遺産の保全」についてより深く理解し、継続的に取り組みをされる団体が増えています。是非、多くの皆様に参加していただきますようお願いいたします。道普請ウォーク(古道ウォークと道普請で3時間程度)のご希望やお問合せは**和歌山県世界遺産センター(0735-42-1044)**で承ります。

和歌山県世界遺産協議会では、歴史上・学術的極めて高い価値を有する世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」について、資産を確実に保存しながら次の世代に継承していくために、次世代育成事業を実施しています。今年度は、和歌山県内の小中高校20校を対象に、「世界遺産入門(講義)・現地ウォーク(中辺路・高野町石道)などの学習を行っています。

平成24年 次世代育成事業の様子



平成24年度は20校の児童生徒の皆さんが参加されます。世界遺産入門などの講義と熊野参詣道中辺路・高野町石道で現地ウォークをしています。



熊野古道 中辺路 環境保全ウォーク
平成24年10月13日(土)に354名が参加。
熊野参詣道中辺路で道普請と発心門休憩所から熊野本宮大社まで古道ウォークをしました。

その他
Guide&Tips 公共建築賞「公共施設賞」を受賞しました。

一般社団法人公共建築協会(会長春田浩司)が1988年から1年おきに実施している「公共建築賞」の第13回同賞の審査が終了し、優秀賞の中から3つの施設に贈られる公共施設賞を受賞しました。

熊野古道センターは、設計が株式会社建設研究所アーキヴィジョン、施工が奥村組・東建興業特定建設工業共同体が受け持ち、2004年12月に竣工された木造及び鉄筋コンクリート造で、尾鷲ヒノキ・熊野スギをふんだんに使用した大迫力の建築物です。釘を使わない珍しい手法で建てられたこともあり建築の専門家や、学生も多く訪れています。

また、同賞審査委員会委員涌井史郎さん(東京都市大学教授)は「本施設は尾鷲湾を見下ろす伊勢路の中でも景観的に優れた敷地に調和し、構造的には伝統的な木材使用法を応用し、これまでにない空間を実現している。

建築的表現では尾鷲ヒノキの年輪と強度と艶を持つ特性を活用し、更に用材の「トレーサビリティ」を135ミリ角のヒノキ材、6549本の全てに行い、我国の林業の危機的な状況にこの事業から未来を可視化したいという使命感が伺える。」との評価をいただきました。



尾鷲ヒノキの公共施設が選ばれたことは地域木材を大事に育てている人たちの思いが表彰されたようでとても嬉しい!
川崎当センター長

企画展

熊野古道写真学校参加者写真展

去る、4月6日～8日に開催した第6回熊野古道写真学校参加者と講師の清水重蔵先生、杉本恭子先生の作品を展示します。一足早い熊野の春の情景をお楽しみください。

期間:平成25年1月26日(土)～2月11日(月・祝)
午前9時～午後5時 ※期間中無休
入場料:無料
場所:企画展示室



企画展

幕末の写真師 田本研造 ～土方歳三を撮った男～

熊野市出身で土方歳三を撮ったと言われる田本研造を顕彰する企画展です。北海道各地で撮影した多くの開拓記録写真などを紹介します。

期間:平成25年2月2日(土)～平成25年2月24日(日)
午前9時～午後5時 ※2/4(月)、2/11(月)、2/18(月)は休館日
入場料:無料
場所:熊野市文化交流センター クマノミチ(熊野市)
共催:熊野市教育委員会



幕末の写真師田本研造(熊野市出身)の肖像(北海道大学蔵)

1 体験教室
「あなたも名カメラマン～ピンホールカメラを作ろう～」

牛乳パックを使用して、カメラの原型といわれるピンホールカメラを作ります。
日時:平成25年2月16日(土)午前10時～12時
参加料:300円
定員:15名(要申込み、先着順)
対象:小学生(小学3年生以下は保護者同伴)
場所:熊野市文化交流センター 研修室1
講師:谷杉アキラ氏(函館谷杉写真館(旧田本研造写真場)館主)



土方歳三(函館中央図書館蔵)

2 パネルフォーラム
「熊野の偉人～幕末の写真師 田本研造を語る～」

幕末の写真師・田本研造がのこした数々の写真について、それぞれの視点から見た写真論について公開討論をおこなう。
日時:平成25年2月17日(日)午後1時30分～3時
参加料:無料 定員:50名(申込み不要)
場所:熊野市文化交流センター 多目的ルーム
パネリスト:谷杉アキラ氏(函館谷杉写真館(旧田本研造写真場)館主)
松山秀夫氏(熊野市神川町区長会長・田本屋敷所有者)
三石学氏(みえ熊野学研究会運営委員・熊野市文化財専門委員)

体験学習



2月17日(日)「東紀州の四季を味わう料理教室～旬のカキづくし料理～」

東紀州の旬の食材や特産品を使った大人気の料理教室です。あなたも旬のカキづくし料理を味わってみませんか?
時間:午前10時～午後1時
参加料:2,000円
定員:24名 ※申込み多数の場合は抽選
講師:村林新吾氏(三重県立相可高等学校食物調理科教諭)
申込期間:1月17日(木)～2月5日(火)午後5時まで

3月10日(日)「東紀州の四季を味わう料理教室」

東紀州の旬の食材や特産品を使った大人気の料理教室です。あなたも東紀州の味覚を味わってみませんか?
時間:午前10時～午後1時
参加料:2,000円
定員:24名 ※申込み多数の場合は抽選
講師:村林新吾氏(三重県立相可高等学校食物調理科教諭)
申込期間:2月10日(日)～2月26日(火)午後5時まで



月別ひのきアート教室

地元の特産品である尾鷲ヒノキからできる魔法の素材・ひのきシートを使ってのものづくり教室です。
12月16日(日)お正月飾り 参加料:12月は1,500円
1月27日(日)お雛様飾り 1月、2月は各1,000円
2月24日(日)部屋飾り 定員:各10名(要申込み、先着順)
※連続講座ではありません 場所:体験学習室
講師:NPO法人海虹路会員



交流イベント

2月2日(土)～3日(日)「熊野古道写真学校 高校生編～目指せ写真甲子園～」

高校生を対象に、尾鷲神社の冬の祭礼やヤヤ祭と熊野古道を中心とした撮影会を開催します。
開催期間:2月2日(土)午後1時～3日(日)午後3時
参加料:3,000円(1泊3食付) 場所:尾鷲市内、熊野古道センター
講師:森武史先生(プロカメラマン)
定員:21名(要事前申込み、先着順) 申込先:協同組合 尾鷲観光物産協会
対象:高校生



講座・講演

12月23日(日)熊野比丘尼が絵解く曼荼羅の世界

熊野比丘尼に扮したガイドによる『熊野観心十界曼荼羅』と『熊野那智参詣曼荼羅』の絵解きを開催します。
時間:午前11時～12時 場所:展示棟ロビー
参加料:無料 講師:尾崎智子氏
定員:50名(申込み不要) 玉置仁美氏(新宮市観光ガイドの会)



2月9日(土)笠原六郎先生講演会

※詳細は後日お知らせします。

その他

「賀田村に残る古文書」

江戸時代の賀田村庄屋文書などから、林業に携わってきた賀田町の当時の様子をご紹介します。
期間:平成24年12月22日(土)～平成25年1月27日(日)
午前10時～午後3時 ※12月31日(月)、1月1日(火・祝)休館



入場料:無料
場所:特別展示室
※写真・イラストはイメージです。